Osaka University Knowledge Archive

Title	上級レベル「機能語」の誤用に関わる要因について
Author(s)	真下, 恭子
Citation	大阪外国語大学留学生日本語教育センター授業研究. 2004, 2, p. 49-64
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/9337
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

上級レベル「機能語」の誤用に関わる要因について

真下　恭子

【要旨】

本稿の目的は、上級文法の授業における「機能語」の誤用例を通して授業の改善を図ることである。上級レベルで学習項目となるいわゆる「機能語」は、使用される環境が限られているものが多く、また、初・中級で学習する語と比べ実際の文脈で出会う頻度も低い。したがって、理解が十分でないまま既習の語と置き換えての誤用が目立つ。本稿では、「日本語能力試験1級レベル」とされる「機能語」の習得を目標とする「上級文法」の授業で収集された誤用例をデータとし、その誤用に関わる要因を、「意志性」、「評価性」、「程度性」、「語彙のタイプ」、「人称制限」、「発話の場面」などの側面から考察する。個々の文型について、導入における説明のあり方、短文作成というタスクの与え方が妥当であったかも検討する。

1．はじめに

コースの開始にあたって行なったニーズ調査で受講生に日本語能力試験受験を希望する学生がいたことから、教材として、日本語能力試験１級合格レベルのものを使用、その「機能語」の習得を授業の目標とした。１級レベルの語彙とされるものの多くは、書き言葉にのみ見られるものや使用される環境が限られるもので、必ずしも使用語彙でなく理解語彙としての習得で十分であると思われるが、定着を図るため授業内での短文の作成を試みた。学習者の誤用例を通じ、指導において補うべき点を考慮する。

2．データについて

誤用例は、2001年秋学期「上級文法」受講の学生21名の短文作成タスクより収集した。授業内で各文型の説明後、全員にその文型を使って作成した短文をプリントに記入させた。そのうち数名に発表、板書させた例文については、作成者以外の学生にも正誤を考えさせ、添削、コメントをした。その他の学生が作成した文についてはプリントを添削して返却したので、フィードバックは個人的なものでクラスでは共有されていない。以下、収集された誤用例を見ながら分析を試みる。★以下、網掛け部は使用テキスト記載の文法説明である。（　）内のMは男子学習者、Fは女子学習者、（T）は使用テキスト掲載の例文。(完)、(ど)、(文) は、それぞれ参考テキストの略号である。

3．誤用例とその分析

3－1．評価がかかわる誤用

3－1－1．～ときたら

（1）＊あの人ときたら器用な人でなんでも簡単に直せる。　(韓国F)

（2）？先生ときたら今日もこんなに宿題を出していかれた。　(韓国M)

★AときたらB：AはBだ。(あまりいい話題のときではない)

—この表現はマイナスの評価性を持つが、テキストの「あまりいい話題の時ではない」といった

説明は、だれにとっていい話題でないのか不明確である。(1) の誤用は、第三者が器用なことで話者が迷惑をする場面を想定したのだろうか。「AときたらB」の文型において、「対象Aに対する話者の非難の気持ちを含む」と明確化した方がいいであろう。(2) の例も話者が迷惑を被っているという解釈での誤用であろうが、この表現は話題となる対象への非難なのでこのような敬意を含む表現とはなじみにくい。

3－1－2．～ながらも

(3) ＊大阪での生活は楽しいながらもたまにさびしい時がある。 (韓国M)

★AながらもB：AなのにB。AしてもB。Aにもかかわらず B。(逆接)（「AながらB」と類似）

—「～ながら」は、動作性の語が接続すると二つの異なる動作が同時進行することを表し、状態性の語が接続すると逆接の意味が出るが、逆接の用法でも2つの相反する側面が同時に成り立つという「同時性」を含意すると考えられる。誤用例の不自然さは「たまに～時もある」という表現からくるのではないか。また、この文は4と書きかえても不自然なことから、「評価性」もこの文型に関わると思われる。この文型は、「～ながら」で表現される否定的側面も持つが全体としては肯定的にとらえるという発想ではないか。

(4) ＊大阪での生活は楽しいながらも、家族や友人に会えないさびしさがある。 (作例)

(5) a　田舎での生活は不便ながらも、自然に囲まれていて毎日がすがすがしい。 (作例)

b ＊都会での生活は便利ながらも、緑が少なくてストレスがたまる。 (作例)

3－1－3．～なりに

(6) ＊この問題は私なりに解いたのであまり正しくないです。 (韓国F)

★AなりにB：Aとしての立場でB。A相応にB。

—「そのものごとに限界や欠点があることは認めた上で何かプラスの評価をするときに用いる」(文) との説明もあるが、テキスト例7に見るようにプラスの評価性は必然ではないようだ。ただ、この例においても「悩み」というものが平均的レベルに達しないまでも、その存在が肯定的にとらえられていると考えられるので、6が誤用となるのは「私」がもつ何らかの資質や特性の存在が肯定的に語られていないからと考えられる。

(7)　どんなに幸せそうに見えても、人にはその人なりに悩みがあるものだ。 (T)

3－1－4．～もさることながら

(8) ＊彼が戦争で財産もさることながら、おくさんと子供を失った。 (ベトナムF)

★AもさることながらB：Aはもちろんだが、そればかりでなくB。

—これも語の置き換えによる誤用のようである。AとBは、「あるNをプラスに評価するための側面」というレベルで並列できるものと考えられる。ゆえに、8の文にプラスの評価を加えても9aでは不可である。AとBという複数の側面で評価されるNの存在を認識させることでこのような誤用は防げるのではないか。

（9） a ＊彼は、莫大な財産もさることながら、美人の奥さんも手に入れた。 （作例）
b 彼の名声は、商売で得た莫大な財産もさることながら、新しい分野を開拓した創造性によるものだ。 （作例）

3－1－5．～をものともせずに

(10) ＊すごい雪をものともせずに外でたばこを吸った。 （ベトナムF）
(11) ＊大雨をものともせずに、買い物に行って、かぜをひいた。 （ベトナムF）
(12) ？両親の激しい偏見をものともせずに外国人と結婚した。 （スイスF）
(13) ＊彼は親の反対をものともせずに彼女と結婚してしまった。 （韓国M）
(14) ？彼は両親の反対をものともせずに、軍隊に入った。 （ブルガリアF）
(15) ？とても危ないのに、彼女は雪崩をものともせずにスキーに出かけた。 （ロシアF）

★ AをものともせずにB：Aを問題にしないでB。Aを気にしないでB。（「AをよそにB」と類似。これが否定的な場合に使われるのに対して、積極的に何かする場合に使われる。）

―普通の人ならあきらめてしまうような厳しい状況で、並はずれた能力や勇気で困難を乗り切るというような文脈で用いられる。テキストの説明にある「積極性」とは何かということになるが、達成されることは「社会的にも価値のあること」と考えられる。テキスト例16の類推からか「親の反対を押し切る」という例が非常に多く見られたが、日本の文化では社会的なプラス評価は得にくいことが不自然さにつながっているようだ。

(16) 彼は周囲の反対をものともせず、自分が正しいと思う道を歩み続けた。 （T）

3－1－6．～をよそに

(17) ？彼は医者の父親の期待をよそに医学部に入りませんでした。 （ポーランドF）
(18) ＊父は健康悪化をよそにタバコや酒をする。 （韓国F）

★ AをよそにB：Aに関係なくB。Aを考えずにB。Aを気にしないでB。（「AをものともせずにB」が積極的に何かをする場合に使われるのに対して、否定的な場合に使われる。）

―典型的にはAに入る語は「動作主に向けられる感情や評価」である。ゆえに、このテキストのように「外的状況」が典型となる「ものともせず」と対比させるのは疑問が残る。テキストに「否定的な場合に使われる」とあるように、「[人の感情] をよそに」では、「向けられた感情に応えることをしないで」というマイナスの評価に傾きがちであるのに、19のように「[外的状況]をよそに」では「動作主が煩わされずに」という意味がでることが習得を困難にしているようである。他から向けられる感情を無視し押し切って何かをするという文脈で使われるので、誤用例17では否定表現がなじまないのではないか。

(19) 高速道路の渋滞をよそに、私たちはゆうゆうと新幹線で東京に向かった。 （文）

3－1－7．～っぱなし

(20) ？かぎをかけっぱなしで車から出てしまった。 （韓国M）
(21) ＊日本人のホームレスは一日中寝っぱなしにしている気がする。 （ロシアF）

★Aっぱなし：Aの状態を続けておく。Aをそのままにしておく。

—動詞が結果の状態を含むかどうかで、「ドアを開けっぱなし」のように「結果状態の継続」か「立ちっぱなし」のように「動作の継続」かの意味が変わるが、共通の意味としては、「話し手の不満や非難の気持ちを含むことが多い」（完）とあるように、次の望まれる状態に移行しない、あるいはできない状態と考えられる。鍵は車を離れる際にはかけることが通常望まれるので20は不自然である。21の「寝っぱなし」は、「立ちっぱなし」からの類推であると考えられるが、動作主は自ら望んで寝ているのであり、次に移るべき状態が想定しにくいので不適である。「立ちっぱなし」とは、動作主が座りたいが座るという状態に移ることがコントロール下にない状態である。

3－2．意志性が関わる誤用

3－2－1．～ともなく

(22) ？見るともなしに見ていたら彼女が振り向いた。（韓国F）

(23) ？せんべいを食べるともなく食べていたら、いつの間にか一袋全部食べてしまった。（韓国F）

★Aともなく／ともなしに（＋Aしていると／していたら）：無意識にAしている。

—この文型は、本来ある目的をもって行われるべき意志的な行為が、漫然と行われる時に用いられるが、「食べる」という行為は、他の知覚や思考の動詞と違って、より能動的行為であるため不自然である。「見る、聞く」など知覚や精神活動の語がよく用いられるが、これらの語は注意のレベルによって、能動的、積極的になったり、受動的、自発的になりえるので、「積極的な注意を払わないで」という意味で用いられるのではないか。テキスト例24では「特定の対象に注意を払わずに見ていると」と解釈できるが、22の例では、「彼女を見る」と解釈すると注意を向ける対象が特定されており不自然である。

(24) ショーウインドウを見るともなく見ていたら「何かおさがしですか」と店員に声をかけられてしまった。（T）

3－2－2．～べく

(25) 宇宙飛行士になるべく厳しい訓練を続けている。（ポーランドF）

(26) ＊私は日本語を上手になるべく外大の日本語教育のセンターに勉強している。（中国M）

★Aべく：Aするために。Aしようとして。

—同じ「なる」という動詞を用いていても、意志性の有無が正誤に関わっていると考えられる。目的を表す「ために」と「ように」の用法などでも意志性が問題になるが、「べく」に接続する動詞にも制限があり、意志的行為とみなされるものしか用いられないようである。動作の達成自体がコントロール下にあるかどうかは問題にされないようだ。

3－2－3．～んがため

(27) ＊前もっと宿題をせんがために夜中の3時になっても終わらない。（カナダF）

(28) ＊恋人ができんがために毎日一生懸命おしゃれいしている。（ベトナムF）

(29) ？ストレスを解消せんがために、のんびりと散歩して音楽を聞く。　(ベトナムF)

★AんがためB：AするためB。

— AおよびBに入る動詞は、意志的な動作と考えられるので27の「終わらない」や28の「できる」は不適である。ただし、「試験に合格せんがため」「長年の夢を実現させんがため」(完)のような表現があることから、その達成までコントロールできなくとも、その達成に向けて努力することが可能であるものも含まれる。28は「恋人をつくらんがため」とすれば意志的な働きかけとなるが、この文型では「目的」が人生において重要なものなど、特に強調されている感があるので語彙的になじまない。29でも目的が強調されすぎている感がある。30のように「べく」のほうがなじむようだ。

(30)　ストレスを解消すべく、のんびりと散歩して音楽を聞く。　(作例)

3－2－4．～を余儀なくさせる

(31) ＊子供を医者にしたくて、医学部の入試を余儀なくさせた。　(ベトナムF)

(32)　雪崩が登山計画の中止を余儀なくさせた。　(ロシアF)

★Aを余儀なくさせる：相手の意志に反してAさせる。

—31は「親が強制した」を意図したと考えられる。この文型は、影響を受ける対象の意に反して後件を成立させる外的状況がある時に使われる。32のように人の意志によってコントロールできない状況が、動作を引き起こすものとして主語にたつのが典型である。31は、意志を持つ動作主を主語にせずに33のようにすると許容できる。

(33)　親の圧力が彼の医学部受験を余儀なくさせた。　(作例)

3－3．程度性が関わる誤用

3－3－1．～ともなると／～ともなれば

(34) ？春ともなれば花見である。　(韓国F)

★AともなるとAともなれば：Aになるとやはり。「も」は強調。

—「状況がAのようになったらそれにあわせ状況も変わる」という意味である。「「～ともなると」の「も」は、ある幅をもった範囲のうち、程度がそこまで進んだことを表すから、「～」にはより程度が進んだことを示す名詞が来る。」(ど) とあるように、Aには「程度性」を持つ語が来る。35の「東大卒」という語は大卒者というカテゴリーの中である尺度（学力等）を当てはめて高い程度を持つと理解される語であるのに対し、「春」は冬と比べ気温が上がるなど、何らかの程度性を含意すると考えられなくはないが、4季のうちの一つであり、程度表現と解釈しにくいのでやや不自然。36の「4月」だと、月の連続した尺度でとらえられるので、3月よりさらに暖かい4月といった程度性の解釈がしやすい。後件も前件にあわせ程度性を含む表現になるが、34の「花見である」という述語は「花見が春にもっともふさわしいイベントである」と程度性を読み込んで解釈する必要がある。

(35)　東大卒ともなれば、言うことが違う。　(T)

(36)　4月ともなると、さすがに暖房はいらなくなる。　(T)
(37)　4月ともなると、この公園は花見の行楽客でにぎわう。　(作例)

3－3－2．～にして
(38) ＊今、私にして一番大事なことは一日も早くいい仕事を見つけることです。　(韓国F)

★Aにして：①A（時間、場所、状況）の強調。　②Aでもできないのだから、それより程度の低いものは当然できない。
—38は「私にとって」と立場を述べたかったようであるが、Aに入る語は程度性を含むものである。状況が「ある段階に到達して初めて何かが起こったこと」（文）とあるように、Aが人を表す名詞であってもテキスト例39の「先生」のように知識や能力といった何らかのスケールの上でとらえられていることを理解させる必要がある。
(39)　先生にして解けない問題なのだから、私ができるわけがない。　(T)

3－3－3．～といえども
(40) ＊彼女は大人といえども、料理さえできない。　(韓国F)

★AといえどもB：AでもB。AけれどもB。
—譲歩を表す表現で「Aのような極端な立場であっても」という意味なので、Aのような資格や性質をもつものの一般論となり、40のように個別の人物を主題に立てることはできない。Aに入る名詞は、何らかのスケールで極端な性質を持つことを含意するものであるので、テキスト例41の「親」は「子供に最も影響を与える人」と理解できるが、40の「大人」は際立った程度性を持つ例として解釈しにくい。
(41)　親といえども、子供の将来を勝手に決めることはできない。　(T)

3－3－4．～んばかり
(42) ＊うそだと言わんばかりに彼女は信じられない顔をしている。　(ベトナムF)
(43) ？お母さんは、子どもがまた授業をサボった先生に言われ、怒らんばかりの顔をした。
(ブルガリアF)

★Aんばかりだ／んばかりに／んばかりの：Aしそうだ／しそうに／しそうな。
—「ある状態がそれぐらいの程度だ」ということなので、程度性のないものには使いにくい。「AんばかりにB／AんばかりのB」という形で「Bという動作の程度がAという語であらわされる程度にはなはだしい」という意味となる。42は「うそだと言う」と「信じられない」が意味的に重なるので「うそだと言わんばかりの顔をする」で十分である。43は「怒る」と言う語が何かの程度を表しているではないので不自然である。例えば、「泣きださんばかり」にが「悲しみ」の程度を表すように、「怒り」の程度を含む表現なら可である。

3－3－5．～というところだ／といったところだ
(44) ？今回のテストは100点といったところだろう。　(韓国F)

★Aというところだ／といったところだ：だいたいAぐらいだ

—このテストが200点満点のものなら可である。100点が満点の場合は、最も極限の数字であり、だいたいという概数になじまない。「今回のテストは80点といったところだろう。」なら可。「あまり多くないと思える数量がくる」（ど）とあるが、必ずしも否定的な評価でなくてもよさそうである。「だいたい」は数量表現のみであるが、この文型は何らかの程度の基準があれば用いられる。以下の例は、旅行の規模というスケールがあるので使える。

(45)　ゴールデンウィークといっても、我が家ではせいぜい日帰りで郊外に出かけるというところだ。

3－4．時間表現に関わるもの

3－4－1．～なり

(46)　＊外食するなり、また家で夕食を食べてしまった。　（韓国F）

★AなりB：AするとすぐにB。

—「～なり」を「～てすぐ」に置き換えて考えたためおこった誤用のようである。「すぐ」は時間的接近が意識されれば、用いることができるが、「～なり」は連続した一連の出来事としてとらえられている。「その動作の直後に予期しない出来事が起こる場合に用いられる」（文）と説明されるように、時間的に連続した動作であっても、一連の動作として予測されているものには使いにくいようである。したがって、通常予測可能な話者の意志的な動作などには用いられにくく、話者が他者の行動を事態の発生としてとらえる場面で用いられる。「Aという事態が起こった後に当然予測される行動や事態のレパートリーにないBが起きる」という場面を想起させればよいであろう。

(47)　a　彼は家へ帰って来るなりテレビのスイッチを入れた。　（作例）

　　b？彼は家へ帰って来るなりくつを脱いだ。　（作例）

　　c＊私は家へ帰って来るなりテレビのスイッチを入れた。　（作例）

3－4－2．～や否や

(48)　？先生は私の質問が終わるや否や分かりやすく説明してくれた。　（韓国F）

(49)　＊いつもうそをついている彼の顔を見るや否や嫌になる。　（ベトナムF）

(50)　？部屋に帰るや否や電気をつけっぱなしでおいといたことに気づいた。　（韓国M）

(52)　？その人は彼女を行く（彼女に去られる？）や否や他の彼女を誘った。　（モンゴルF）

★Aや／や否やB：AするとすぐB。AするかしないかのうちにB。（「Aたとたん（に）B」「Aが早いかB」と類似。）

—「後のことは前のことに反応して起こる予想外のできごとが多い」（ど）とあるように、一回性の偶発的なことである。また、森田（1989）によれば「同時性」は話し手の主観的な観察・判断によるものである。48のように通常一続きの連動したイベントや、49のように習慣的なことには使わない。後件は何かの動作や状態の生起であり、「気づく」などの認識の動詞は使いにくい。52のように時間的に断絶が感じられるものは使いにくい。

3－4－3．～が早いか

(53) ？チャイムが鳴るが早いか犬の吠え声が聞こえた。 (ロシアF)

(54) ？彼氏が悪口を言うが早いか彼女は泣き出した。 (ロシアF)

★AがはいかB：AするとすぐBする。

—二つのことがらの同時性のみならず、「関連性」(一連の動作、あるいは前のことが後ろのきっかけとなる) も認識されているので、55のようにA、Bに関連があればよいが、53のように全く関連のない出来事が連続して起こった時は使いにくい。この文型はAからBの事態への移行が急速であることを強調するので、54は「泣き出す」という事態の生起よりタイミングが強調され過ぎていて不自然である。56になると文が落ち着く。

(55) ベルが鳴るが早いか、彼女は受話器をとった。 (T)

(56) 彼氏が悪口を言ったとたん、彼女は泣き出した。 (作例)

3－4－4．～を限りに

(57) ＊今日のけんかを限りに、離婚の届けを出します。 (スイスF)

(58) ＊明日を限りにレポートの締め切りなんですが、まだできてないな。 (ロシアF)

(59) ＊今日を限りに春休みが始まる。 (モンゴルF)

(60) ？秋学期に遊びすぎましたが、新年を限りにがんばって試験に合格しようと思います。 (ポーランドF)

★Aを限りにB：①Aを最後にBする。②Aを最大限Bする。

—②の用法は「声を限りに」等の慣用表現である。①の用法では、文末の述語は語彙的に制限される。今まで継続していたことが打ち切られるという意味なので、何らかの動作、作用の開始を意味するものは不適である。今を含む時の表現が多いことから、発話時点まで継続していた行為をその時点で打ち切るという宣言文が典型である。

(61) 今日を限りに、会社をやめます。 (T)

3－4－5．～をもって

(62) ＊この卒業式をもって皆さんは自分の行動に責任を取らなければならない。 (韓国M)

★AをもってB：①AによってB。AでB。②Aを区切りとしてB。

—①は「文書をもって」等手段を表す。誤用例は②の用法で、「この卒業式以降は」を意図したと考えられる。開始や終了の限界点を表し、閉式のあいさつなどによく用いられる。62は「この卒業式をもって学生生活も終わりとなります」なら可である。限界点を示し、典型的にはその限界点を宣言する文なので、相手への行為要求などには用いられない。

3－4－6．～てからというもの

(63) ？日本で来てからというもの、納豆が食べられるようになった。 (韓国M)

(64) ？彼女は弁論大会の受賞をもらってからというもの、鼻が高い。 (ブルガリアF)

★AてからというものB：AをきっかけにB（以前と違う状態）になった。

―後件は事態の生起であり、可能性や能力を述べる文は適さない。63は66のようにすると事実になるので可。65のように感情などの内面の変化も事態の生起に含まれるが、第三者の感情などは67のように観察可能な形にする必要があるようだ。

(65)　あの本を読んでからというものは、どう生きるべきかについて考えない日はない。（ど）

(66)　日本へ来てからというもの、納豆をよく食べるようになった。（作例）

(67)　彼女は弁論大会の賞をもらってからというもの、自慢ばかりしている。（作例）

3－4－7．～そばから

(68)　＊彼は医者だから、夜家に着くそばから救急で呼ばれる場合が多い。（ポーランドF）

(69)　＊タバコをやめなさいと医者に言われるそばからついタバコの自動販売機前に立ってしまう。（韓国M）

★AそばからB：AするとすぐB（Aしたことの効果がすぐBで、消えてしまう）。

―Aによって達成された状態が、すぐにBという事態の発生によってキャンセルされるということが繰り返し起こる。Aは目的を持った意志的動作が多いが、テキスト例71のように自然現象も含みうる。達成された状態は必ずしも外部から確認できるものでなくてもよいが、何らかの期待される「効果」を持つことが必要である。68の「家に着く」は結果の状態は含意しても「効果」までは含意しないと考えられる。69の「言われる」は70の「教える」と同じように言語による伝達であるが、効果までは含意しないようだ。

(70)　彼は私が教えるそばから忘れてしまう。（T）

(71)　この木の実は赤くなるそばから鳥に食べられてしまう。（T）

3－5．条件表現が関わるもの

3－5－1．～ばこそ

(72)　？彼女の写真を見ればこそ、会いたくてたまらない。（ニュージーランドM）

(73)　＊結婚式にさそわれていなければこそ出席できないのです。（ロシアF）

★AばこそB：AからこそB。

―「ばこそ」は「ば」に強調の「こそ」が付いたものであるが、意味は仮定条件でなく理由を表す表現となっていることから混乱があったようだ。「ば」が単独で用いられるときには事実条件としては用いられないが、「ばこそ」は確定した事実として述べられている。また、「からこそ」が評価にかかわらず使えるのに対して、「「ばこそ」はマイナス評価のことがらが原因・理由となる場合は使いにくい」（文）とあることから73の不自然さの一因はマイナス評価の事態であることからくるようである。ただし、75のように「からこそ」に置き換えても不自然なことから、否定表現にもなじまないのではないかと思われる。ある事態を生起を肯定的にとらえ、その1つの理由を強調するものだからだろうか。

(74)　a＊体が弱ければこそ嫌いなものも無理して食べなければならない。（文）

　　b　体が弱いからこそ嫌いなものも無理して食べなければならない。（文）

(75)　＊結婚式にさそわれていないからこそ出席できないのです。

3－5－2．～までだ

(76) ＊私が悪かったので責任を取るまでだ。 (ブルガルアF)

(77) ＊その店の料理はおいしくないから、行かないまでだ。 (ベトナムF)

(78) ＊髪の毛をなんかいも染めて、パーマもかけたせいで、髪を壊して切るまでのことだ。 (スイスF)

★Aまでだ／までのことだ：Aだけだ、それ以上ではない。

—「動詞の「た形」＋までだ」が既に実現したことの理由を述べる文であるのに対し、「非過去形＋までだ」は条件文に続く未実現のことであることが理解されていなかったようである。「非過去形＋までだ」は、話者にとって望ましくないことだが、仮にそうなってもそれを受け入れようという心の準備があることを意味するので、前件は「から」「ので」のような理由でなく、「ても」のような譲歩の表現をとるべきである。

3－5－3．～が最後

(79) ＊彼の遅刻について聞いたが最後、彼の言いわけが続いた。 (韓国F)

(80) ＊宗男議員の言いわけを言い始めたが最後、もっとも疑惑が生じてきた。 (韓国M)

★AがB最後：もしAしたら、Bという結果になり、もう止められない。(Bは悪い結果)

—「あることが起これば必ず」という条件の表現。後件は、その条件下で必ず起こると思われること（81）や、話し手の意志（82）がくる。79、80の誤用例のように一回性の事実条件には用いにくい。しかし、83のテキスト例のように動作主の意志を含む表現なら許容されるようである。

(81) 彼がスピーチを始めたが最後、長々と話が続いて終わらない。 (T)

(82) ここで会ったが最後、謝ってもらうまで逃がしはしない。 (文)

(83) 獲物をくわえたが最後、猛獣はそれを放そうとはしなかった。 (T)

3－5－4．～たところで

(84) ？バレンタインデーにチョコレートをあげたところで、なかなか私のことが好きにならない。 (ポーランドF)

★AたところでB：Aしても、B。(逆接)

—この例は「～だろう」と予測の文にすればよい。前件は既成の事実でなく仮定を表し、後件は事実の叙述でなく話し手の判断文であることが理解されていなかったようである。「仮にAが生起しても、プラスにせよマイナスにせよ影響がおよばない」と話者の判断を述べる文である。

3－6．語彙のタイプが関わるもの

3－6－1．ひとり～のみならず

(85) ？今年のチャリティーのコンサートの成功はひとり歌手のみならず寄付者のみなさんのおかげです (ポーランドF)

(86) ＊ひとりニュージーランドだけでなくその国の人々もすぐれている。

(ニュージーランドM)

(87) ＊スピーチコンテストにひとり外国人だけでなく日本人も参加してもらいたいのです。

(ロシアF)

(88) ＊テロ問題はひとりアメリカとアフガニスタンだけでなく世界的な問題だ。(モンゴルF)

★ひとりAだけでなく／ひとりAのみならず：Aばかりでなく

—類義語の「ただ～だけでなく」と異なり、Aは「単数」でなければならない。必ずしも人でなくても「単数名詞」及び「一まとまりの概念」であれば可。しかし、「両国」という意味的に複数となる例89がテキストに掲載されていたのでまぎらわしかったと言える。また、86のようにカテゴリーの異なるものは並列できない。後件は問題がその範囲にも及ぶという叙述であり87のように聞き手に働きかける文にはなじまない。

(89) 日米貿易摩擦はひとり両国のみならずほかの国にも大きな影響を与えている。(T)

3－6－2．～にあるまじき

(90) ＊おさけをのむと奥さんを殴ったりするなんてご主人にあるまじき行為だ。(ベトナムF)

★Aにあるまじき：Aとしてあるべきではない。Aとしてあってはならない。

—「N1にあるまじきN2」の型の表現では、N1に地位やタイプを示すもの、N2にその地位などから一般に期待できるもの、すなわち、行為、発言、態度といった名詞が続く。N1は「個体」を指示するものでなく、「役割」としての名詞が来る。「ご主人」は敬語表現になることで聞き手、もしくは第三者の夫という個体を指すので役割名詞としては「夫」などとすべきである。

3－6－3．～まみれ

(91) ＊スープをこぼしてしまった。新しいスーツがしみまみれになった。(韓国F)

★Aまみれ：Aが一面についてよごれている様子。

—「Nまみれ」のNに入る語は、表面に付着している「物質」を指す名詞である。「しみ」は液体等が付着して変色した「状態」を指す名詞であると考えられるので、「傷、しわ、あざ、にきび」等と同じように「～まみれ」という表現はできない。Nは表面と分離可能なものと考えられる。「にきび」等は人体の一部であると考えられているのに対して、「汗」や「血液」は元は人体の一部であったものでも体外に排出されることで、切り離されて考えられているようだ。「ほこりまみれ」などは言えても、「かびまみれ」などが言えないことから「ふきとる」などの行為で表面から除去するという発想が関わるのではないか。

3－6－4．～めく

(92) ＊彼はばかめいた振る舞いをする。(ばかげた)　(ブルガリアF)

(93) ＊自分のことなのに他人めいたことを言うな。(他人事)　(韓国M)

(94) ＊彼は男なのに女めいたこうどうをしている。(女っぽい)　(韓国F)

(95) ？お前はそんな哲学者めいたことは言うな。　(モンゴルF)

(96) ＊試験の時カンペめいた物をつかわないでよ！（カンニングペーパーのようなもの）
（ロシアF）

★Aめく：Aのような／Aのようだ。（「Aめいてくる」の形で「Aらしくなる」の意味にも使われる）←「春めいてくる」の例

—Nに入る名詞は制限されている。それは、季節の言葉の中でも用例のほとんどは「春」であり、「夏、冬」の用例はみられないことからも慣用化された表現が多いことがわかる。「春」を期待する文化的背景と、つぼみがふくらむ、雪がゆるむなど、その兆候に注意が向けられてきた慣習によるものであろう。夏、冬などは激しさをイメージし、ほのかな兆候を感じるという文脈で用いられにくい。他に「冗談めく」「謎めく」「皮肉めく」などの用例があるが、Aの対象となるものは、「直接的に知覚することが困難で、そのものの持つ兆候や要素から感覚的につかむN」が適し、それが持つ要素から明示的に判断できるものなどには向かないと考えられる。テキスト例97は「親しさ」というスケールで連続してとらえられているのだろうが、93では「自分—他人」の2項対立なので不自然なのではないか。このような語は用例が限られるので理解にとどめるだけでよいかと思われる。

(97) 夫婦なのに、他人めいたこと言わないでよ。（T）

3－6－5．～かたわら

(98) ＊彼はわが社の優秀な人材のかたわら私の変人（恋人？）だ。（韓国M）

(99) ＊勉強するかたわら音楽を聞いていた。（ロシアF）

★AかたわらB：Aと同時に／の合間にBをする。（職業や仕事、勉学などについて、1つでなく同時にほかのこともしているということを表すときに使われる。Aは本業で、Bは副業になる。）

—98は「優秀な人材であると同時に私の恋人でもある」を意図したもののようだ。AおよびBに入る語は「動作性」があるものと考えられ、「人材」や「恋人」など資格や身分や立場を表す名詞には使えないようだ。「～ながら」が一時的な状況で使えるのに対して、「かたわら」は99のように1回性の動作でなく習慣的なものある。したがって、述語を「ている形」に指定して作文させた方がよかったかもしれない。

3－6－6．～にあたらない

(100) ＊甘やかすことは愛情の一つにはあたらない。（韓国M）

★Aにあたらない／にはあたらない：Aするのは見当違いだ。Aする必要はない。Aしなくてもいい。

—誤用例は「甘やかすことは（本当の）愛情ではない」と言いたかったようだ。この文型は、何らかの事実に対してAという評価をする第三者の態度に対してそれは適当でないという話者の判断である。「Bからといって／なんてAにあたらない」という形でよく用いられるが、Bには「甘やかすこと」のような一般的概念でなく、個別のイベント、Aには「驚く、非難する」等、評価や感情を含む語がくる。「[個別のイベント］なんて／からといって［評価・感情］にあたらない」という形を指定して短文作成をさせればこのような誤用は減るであろう。

(101) 今度の試験が悪かったからといって悲観するにはあたらない。 (T)

3－6－7．～の至り

(102) ？友達に助けていただき恐縮の至りです。 (ロシアF)

(103) ＊私にとって一級を合格するのが幸せの至りだった。 (ニュージーランドM)

(104) ＊日本語を勉強している人にとって、日本に留学することは期待の至りだ。(ベトナムF)

(105) ＊外国に行った時、パスポートがぬすまれて困りました。その時旅行会社の方々はいろいろ助けていただき。感謝の至りです。 (ロシアF)

(106) ＊夜中にこんなに暗い道を歩くのは恐怖の至りだ。 (ロシアF)

(107) ？思いも寄らず彼に整形手術以前の写真を見られてしまって赤面の至りだった。(韓国F)

★Aの至り：最高に、A（感情、気持ち）だ。(「A限りだ」と類似)。

―「若気の至り」等の慣用表現もあるが、大半は「かたい挨拶言葉として使われ」(文) とあるように聞き手に向けられた話し手の感情の表出であり、発話の場面性を明確にする必要があった。104のような一般論でなく話者の個人的経験であるので、感情の主体も1人称に限定され、個々の事実に対する評価である。定型表現化しており、感情に関わる言葉なら何でも使えるわけではない。「光栄の至り」のように感謝を表す表現や「赤面の至り」のように恐縮するものなどがあり、謝辞を述べる場面が典型であると考えられる。

3－6－8．～の極み

(108) ＊体力の極みまで私は走り続けた。 (ロシアF)

(109) ＊宇宙の極みはどこまでだろうか。 (ロシアF)

(110) ＊彼の成功は富と名誉の極みだ。 (韓国F)

(111) ？結婚したばかり夫が亡くなるのは悲嘆の極みです。 (ポーランドF)

(112) ？自分の両親を殺すのは親不孝の極みだ。 (ニュージーランドM)

(113) ？卒業式に代表としてスピーチをすることは光栄の極みです。 (カナダF)

(114) ？十年間ぶり彼女に会うことは感激の極みです。 (ベトナムF)

★Aの極み：Aが極限まで達している。もっともAだ。

―108、109の「宇宙」「体力」のような、それ自体程度性を含まない語は用いられず、また、限られた語彙しか使えない。「感激、痛恨」など感情を表す語が多いが、「ぜいたく、親不孝」なども用いられる。いずれにしてもプラスマイナスの評価を含む語のようである。一般論でなく成立した事実に対する評価であり、「～のは～の極み、～ことは～の極み」などの文型では用いられない。このような表現は、かなり用法が限定されているので、自由に作文させるより理解にとどめるだけでよいと思われる。

3－7．人称制限に関わるもの

3－7－1．～を禁じえない

(115) ＊私は服を買うことを禁じえない。 (ロシアF)

(116) ＊親に捨てられた子供を見ると、悩み<u>を禁じえない</u>。 (ベトナムF)
(117) ＊その人の思いやりに感謝<u>を禁じえない</u>。 (モンゴルF)
(118) ＊娘は大学の入試を落ちたので悲しみ<u>を禁じ得ない</u>。 (ベトナムF)

★Aを禁じえない：Aという気持ちをおさえることができない。
—Aに入る語は、かなり慣用化、限定されている。「涙、怒り」などが典型で「一時的に生起する感情」に用いられ、「悩み、感謝」など持続的と考えられるものは用いないようである。117は「感謝の念」とすると落ち着くのは一時的な感情になるからであろうか。また、この文型で表現されるのは話者の感情である。したがって、118は「は」を「が」に変えると話者の感情となるが「涙を禁じえない」が慣用化しているためか「悲しみを禁じえない」に違和感を覚える。

3－7－2．～てやまない
(119) ＊兄は早く退院することを祈っ<u>てやまない</u>。 (ブルガリアF)
(120) ＊問題の解決法を考え<u>てやまない</u>。 (ロシアF)

★Aてやまない：「祈る」「願う」「期待する」などに続けて、それを強調する表現法。
—「話し手が深くその気持ちを持っており、いつまでもそう思うということを表す時の表現」(完) とあるように、話し手の祈願文である。心情を伝える表現で、相手の利益を祈願するのが典型である。したがって、119のように三人称を感情の主体にすることはできず、また、動詞の語彙も制限されており、120の「考える」などの思考の動詞は用いられない。

3－8．その他の誤用
3－8－1．～ないではすまない
(121) ？一人暮らしは家事を全部一人でし<u>ないではすまない</u>ので大変だ。 (韓国F)

★Aないではすまない：Aしなくてはならない。
—この例は「～なくてはならない」という語におきかえたための誤用である。この表現は単なる義務を表すものでなく、動作主にとっては、できればしたくないことというマイナスの評価性を含む。典型的には、社会の常識やルールから許されないことで、全く他者とのかかわりのない個人的なことには使いにくい。誤用例は、テキスト例122からの類推であると考えられるが、この例でも何らかの社会的な責任が関わってくる。誤用例の不自然さは、家事を一人でするということが全く個人的なできごとで他者への、あるいは、社会的な影響力を持たないからであろう。
(122) 私はひとりっ子だから、両親の老後の面倒は私がみ<u>ないではすまない</u>。 (T)

3－8－2．～ずにはおかない
(123) ？彼は、帰国したんだけど、また戻って来<u>ずにはおかない</u>。 (ロシアF)
(124) ？友だちが困っているので助け<u>ずにはおかない</u>。 (韓国F)

★Aずにはおかない：必ずAする。

—125のように動作主の意志的働きかけで他者に影響を与えるものと、126のように外部からの働きかけである状態（主に感情）を引き起こすタイプがあるが、どちらも「他者への働きかけ性」が認められる。123は、「他者への働きかけ性」が認められない点で不適である。また、「働きかけ」は被動作主の意志に反するものが典型で、127のように必ずしも不利益にならなくても、「他者の意志を無視して」という解釈がなりたたないのは用いられないようだ。その点で124は違和感が感じられる。

(125) 神は罪を犯したものには罰を与えずにはおかない。 (T)

(126) 命がけで主人を守った盲導犬の話は人々を感動させずにはおかなかった。 (T)

(127) 彼ほどの選手であれば、どのプロ野球球団もスカウトせずにはおかないだろう。 (T)

3－8－3. ～をおいて

(128) ？今、私に必要なのはお金をおいてほかにない。 (ロシアF)

(129) ？クラスの中に彼女をおいてきれいな女はいない。 (モンゴルF)

(130) ＊そんなにヨーグルトが好きな彼女をおいて他にはいないだろう。 (ロシアF)

(131) ＊私の気持ちに適合うことはみんなといっしょに日本語を勉強をおいてほかにない。 (中国M)

★AをおいてBない：A以外には、Bない。

—「以外に」と置き換えたための誤用が多いようだ。ある状況において、何らかの特定の役割に最適なものを一つ選ぶ時に使うので、「きれいな女」や「ヨーグルト好きの人」など不特定の名詞には適さない。129は、133のように役割を指定すれば可となる。Aは限定された特定の役割にふさわしいものであることを理解する必要がある。

(132) 私の部屋に合うテーブルはこの白くて丸いのをおいてほかにない。 (T)

(133) このクラスの中に彼女をおいてミス外大になれる女性はいない。 (作例)

3－8－4. ～と相まって

(134) ＊週末と月曜日の休日と相まって三日間家でゆったり休むことができた。 (韓国F)

★(A)、Bと相まってC：AとBの2つのことが重なって、Cというよい結果になる。

—誤用例はテキスト例からの類推と考えられる。135では祝日と曜日という異なる要素の相乗効果で「にぎわう」という効果がでているが、134では二つの休日が独立に連続するだけである。この文型は、二つの異質な要素の相互作用から相乗効果がある時に使えることを理解させる必要がある。

(135) 今年のクリスマスイブは土曜日と相まって、街は例年以上ににぎわっている。 (T)

3－8－5. ～を皮切りに

(136) ＊Aさんは顔を整形したのを皮切りにおとこの人によく声をかけられてきた。 (ベトナムF)

(137) ＊カナダにいる親友とも留学を皮切りに連絡がなくなった。 (カナダF)

(138) ＊僕の人生は留学を皮切りによりよい方向へ向いていた気がする。 (韓国M)

(139) ＊漢字テストで100点を皮切りに漢字の勉強が楽しくなった。 (韓国F)
(140) ＊あの先生はいつも笑い話を皮切りに講義をする。 (ベトナムF)
(141) ＊友人はビールを皮切りにウイスキーみたい強いお酒がなんでも好きだそうだ。
(ロシアF)

★AをB：AをはじめにB。Aをきっかけとして B。

—Aを初めに以下B、Cと同類項が続き、全体が盛り上がっていくようす。A、Bが同じカテゴリーに含まれるイベントであるということと、それらが時系列で続くということが理解されていなかったようである。発展していくというプラスの評価もかかわる。141は、「～をはじめ」との混同と見られる。また、テキスト例142では「担当者逮捕」は「事件の真相が明らかになる」イベントの一環と理解できるが、140の「笑い話」は授業時間内に行なわれても「講義」とは別のものとみなされるので不自然である。

(142) 担当者の逮捕を皮切りに汚職事件の真相が次々と明らかになった。 (T)

4．おわりに

短文作成というタスクは語の接続の形態を定着させたり、誤用の添削によって単なる言葉の置き換えで起きやすい誤りを発見する機会でもある。しかし、上級レベルの「機能語」は使用できる環境が限られているものが多く、話者の評価や期待といった態度や発話の場面が関わるものも少なくない。したがって、短期間で使用レベルまでひきあげることは難しく、定着のための短文作成も十分に工夫しないと学生の負担が大きく消化しきれないであろう。このようなタスクも、各文型ごとに一律に行なうのでなく、部分的に作成させるものや、慣用句的なものでおおよその意味の理解にとどめるものなど、それぞれにあわせた定着がはかられるべきであった。全文を作成させる時も、話者の判断や評価を述べているのか、聞き手に働きかけているのか、発話の場面はどうかなどを十分咀嚼しやすいかたちで提示することが重要であると考えられる。また、口頭での文法説明の補足は聞きのがしてしまう可能性があるので誤りやすいポイントは板書やプリント等、文字の形で提示することも必要と思われる。今回の学習者の誤用を通じての分析を次回の改善につなげたい。

[使用テキスト]
『日本語能力試験文法問題集1級2級』(1996) 白寄まゆみ・入内島一美[編著] 桐原ユニ
[参考テキスト]
(完) =『完全マスター日本語能力試験文法問題対策1級』(1997) 植木香・植田幸子・野口和美著スリーエーネットワーク
(ど) =『どんな時どう使う日本語表現文型500 中・上級』(1996) 友松悦子・宮本淳・和栗雅子著 アルク
(文) =『日本語文型辞典』(1998) グループジャマシイ編著 くろしお出版
[参考文献]
庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のためのハンドブック』スリーエーネットワーク
森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型』 アルク

(ました きょうこ 本センター非常勤講師)